

議案第 1 号

資料1-1

国際高等研究所

2004 年度(平成 16 年度)

事業報告書

(案)

- 2004 年 4 月 ~ 2005 年 3 月 -

2005/05/31 10:00 版

2004 年度(平成 16 年度)事業報告 (2004 年 4 月～2005 年 3 月)

. 管理運営	- 1 -
1. 理事会、評議員会等	
2. 企画委員会	
3. 財務状況	
. 研究事業	
1. 総括	- 7 -
2. 課題研究	- 8 -
3. 特別研究	- 22 -
4. 共同研究	- 24 -
5. 協力研究	- 24 -
6. 「学術フォーラム」	- 25 -
7. 共催事業	- 27 -
. 「学者村」の活性化 「フェロー(IIAS Fellow)」事業	- 27 -
1. 「フェロー(IIAS Fellow)」事業	
2. 上級研究員制度の新設	
. 専門的人材育成事業	- 28 -
1. コンピュータショナル・マテリアルズ・デザイン(CMD)ワークショップ	
2. 特別研究員の採用	
. 学術情報システムの構築と学術情報事業	- 29 -
1. 研究過程と研究成果を統合する学術情報システムの構築の研究	
2. 情報出版委員会	
3. 情報出版事業の充実	
4. 研究報告書の発行; 「コピーマート」の展開加速	
5. 高等研選書の発行	
. 一般公開事業	- 31 -
1. 一般公開講演会	
2. けいはんな春の茶会と文化・学術講演会	
3. 「親子」サイエンス・スクール	
. 広報事業	- 32 -
1. 「IIAS NEWSLETTER」及び広報誌「こうとうけん」の発行	
2. インターネット・ホームページにおける公表	

I. 管理運営

1. 理事会、評議員会等

理事会、評議員会及び資産運用委員会の開催概要は下記のとおり。

第53回理事会・第47回評議員会（2004年6月28日）

議案第1号 2003年度(平成15年度)事業報告及び収支決算の承認について

議案第2号 理事・監事・評議員の選任について

報告 (1) 監査の充実について

(2) 資産運用について

第54回理事会・第48回評議員会（2004年10月20日）

議案第1号 監事の追加選任及び評議員の選任について

第55回理事会・第49回評議員会（2005年3月28日）

議案第1号 2005年度(平成17年度)事業計画(案)について

議案第2号 2005年度(平成17年度)収支予算(案)について

議案第3号 理事・評議員の選任について

議案第4号 所長人事について(金森順次郎所長の再任)

報告 (1) 資産運用について

第5回資産運用委員会（2004年7月22日）

基本財産「東京電力社債（第416回）」の満期償還3億円の再運用について

第6回資産運用委員会（2005年3月18日）

基本財産「ハンガリー国立銀行 円貨債(第20回)」の満期償還2億円、及び

基本財産「サントリー ユーロ円仕組債」の早期償還1億円の再運用について

役員名簿

(五十音順・敬称略)

2005年3月31日

	氏名	所属機関	役職
理事長	立石 義雄	オムロン(株)	会長
副理事長	南谷 昌二郎	(社)関西経済連合会	副会長
	西室 泰三	(社)日本経済団体連合会	副会長
	矢嶋 英敏	(株)島津製作所	会長
専務理事	野村 一雄	オムロン(株)	常勤顧問
理事	石川 博志	関西電力(株)	相談役
	稲盛 和夫	京セラ(株)	名誉会長
	尾池 和夫	京都大学	総長
	大崎 仁	人間文化研究機構	理事
	太田 房江	大阪府	知事
	大宮 久	京都経営者協会	会長
	奥井 功	関西経営者協会	会長
	奥田 務	(社)関西経済同友会	代表幹事
	柿本 善也	奈良県	知事
	金森 順次郎	(財)国際高等研究所	所長
	茅 陽一	(財)地球環境産業技術研究機構	研究所長
	阪本 道隆	奈良商工会議所	前会頭
	佐々木 毅	東京大学	総長
	田代 和	近畿日本鉄道(株)	相談役
	田中 千秋	(社)京都工業会	会長
	鳥居 宏次	奈良先端科学技術大学院大学	学長
	野村 明雄	大阪商工会議所	会頭
	堀場 厚	(社)京都経済同友会	代表幹事
	松下 正幸	松下電器産業(株)	副会長
	宮原 秀夫	大阪大学	総長
	村田 純一	京都商工会議所	会頭
	森重 和子	(財)国際高等研究所	事務局長
	山田 啓二	京都府	知事
監事	柏原 康夫	(社)京都銀行協会	会長
	玉越 良介	(社)大阪銀行協会	理事
	吉川 郁夫	監査法人トーマツ	代表社員

理事 28名(理事長1、副理事長3、専務理事1、理事23)

監事 3名

評 議 員 名 簿

(五十音順・敬称略)

2005年3月31日

氏 名	所 属 機 関	役 職
安西 祐一郎	(学)慶應義塾	塾長
井植 敏	三洋電機(株)	会長
石井 米雄	人間文化研究機構	機構長
石田 明	大日本スクリーン製造(株)	社長
位高 光司	日新電機(株)	社長
井上 礼之	ダイキン工業(株)	会長
井端 泰彦	京都府立医科大学	学長
宇野 郁夫	日本生命保険(相)	社長
梅田 貞夫	鹿島建設(株)	社長
江島 義道	京都工芸繊維大学	学長
太田 敏郎	神戸商工会議所	前会頭代行
大谷 實	(学)同志社	総長
大林 剛郎	(株)大林組	会長
岡田 登史彦	ムーンバット(株)	取締役相談役
岡田 益吉	(財)国際高等研究所	副所長
金児 暁嗣	大阪市立大学	学長
河井 規子	木津町	町長
河田 悌一	関西大学	学長
木田 宏	日本学術振興会	顧問
北川 善太郎	(財)国際高等研究所	副所長
久米 健次	奈良女子大学	学長
倉内 憲孝	住友電気工業(株)	顧問
柴田 稔	東洋紡績(株)	相談役
志村 令郎	自然科学研究機構	機構長
下妻 博	住友金属工業(株)	社長
千 玄室	茶道裏千家	前家元
竹中 統一	(株)竹中工務店	社長
竹葉 剛	京都府立大学	学長
塚本 能交	(株)ワコール	社長
鳥井 信吾	サントリー(株)	副社長
中川 久定	(財)国際高等研究所	副所長
長田 豊臣	(学)立命館	総長
西川 善文	(株)三井住友銀行	頭取
野上 智行	神戸大学	学長
幡掛 大輔	(株)クボタ	社長
初山 一登	日本新薬(株)	社長
平松 一夫	関西学院大学	学長
松園 万亀雄	国立民族学博物館	館長
水越 浩士	(株)神戸製鋼所	会長
南 努	大阪府立大学	学長
村上 仁志	住友信託銀行(株)	会長
森下 俊三	西日本電信電話(株)	社長
森田 桂	武田薬品工業(株)	相談役
山折 哲雄	国際日本文化研究センター	所長
吉野 泰生	住友生命保険(相)	会長

(評議員 45名)

2. 企画委員会

企画委員会は、研究事業の推進を図るための所長の諮問機関であり、2004年度は3回の委員会を開催した。構成は、企画委員（下記名簿参照）、上級研究員（下記名簿、別掲 .2.参照）、特別委員（研究プロジェクトの研究代表者、下記名簿参照）及び当該年度のフェロー（別掲 .1.参照）による。

委員会では、研究プロジェクト等の実施状況の報告を受けるとともに、今後の本研究所の研究活動の在り方について意見交換を行った。

(1) 企画委員会

第1回企画委員会：6月11日～12日

基調報告：3件

第2回企画委員会：10月29日～30日

基調報告：2件

第3回企画委員会：2005年2月25日～26日

基調報告：2件

2004年度企画委員（19名）

金森順次郎 国際高等研究所所長（物性物理学）
岡田 益吉 国際高等研究所副所長（発生生物学）
北川善太郎 国際高等研究所副所長（民法学）
中川 久定 国際高等研究所副所長（フランス文学史・思想史）
位田 隆一 京都大学大学院法学研究科教授（国際法）
入谷 明 近畿大学理事・先端技術総合研究所所長（発生工学）
齋藤 恭司 京都大学数理解析研究所教授（複素解析学）
齋藤 軍治 京都大学大学院理学研究科教授（有機物性化学）
佐々木正子 京都造形芸術大学大学院客員教授（日本美術史・画法解析）
田中 成明 京都大学大学院法学研究科教授（法理学）
津田 一郎 北海道大学大学院理学研究科教授（数理科学・加圧力学・脳科学）
東倉 洋一 NTT先端技術総合研究所所長（情報工学・人間情報学）
中野 三敏 福岡大学文学部教授（日本近世文学）
羽入 辰郎 青森県立保健大学健康科学部教授（倫理学・社会学）
星 元紀 慶応義塾大学理工学部教授（発生・生殖生物学）
本庶 佑 京都大学大学院医学研究科教授（遺伝学・生化学・免疫学）
安田 國雄 奈良先端科学技術大学院大学副学長（分子発生生物学）
ヨリツシ、エンゲルハルト 京都大学大学院人間・環境学研究科助教授（比較文学・比較文化論）
和田 光史 長崎国際大学学長（土壌学）

なお、企画委員は2005年3月31日をもって任期満了となった。

2004 年度上級研究員（1 名）

新庄 輝也 京都大学名誉教授（固体物理、無機素材化学）

2004 年度特別委員（10 名）

猪木 武徳 国際日本文化研究センター教授（経済思想・労働経済学）

課題研究「公共部門における人材の配分と育成」研究代表者

岩田 一明 大阪大学・神戸大学名誉教授（機械工学・経営工学）

課題研究「スキルの科学」研究代表者

大矢 雅則 東京理科大学理工学部教授（数理科学）

課題研究「量子情報の数理」研究代表者

木下 富雄 甲子園大学学長・京都大学名誉教授（社会心理学・リスク科学）

課題研究「21 世紀の宇宙開発・宇宙環境利用の問題-人文社会科学からのアプローチ-」研究代表者

小堀 鐸二 京都大学名誉教授（建築構造学）

課題研究「災害観の文明論的考察」研究代表者

鳥海 光弘 東京大学大学院新領域創成科学研究科教授（複雑性科学）

課題研究「隙間 - 自然、人間、社会の現象学 - 」研究代表者

橋本日出男 大阪大学理事（開発経済学）

課題研究「開発途上国と日本人長期政策アドバイザー」研究代表者

波多野誼余夫 放送大学教授（認知科学）

課題研究「思考の脳内メカニズム」研究代表者

原田 宏 筑波大学名誉教授（植物生理学）

課題研究「分化全能性 - 普遍性と特異性 - 」研究代表者

鷲田 清一 大阪大学理事・副学長・大学院文学研究科教授（倫理学）

課題研究「センサー論」研究代表者

2004 年度フェロー（10 名）

・「「学者村」の活性化」の項に記載。

（2）小委員会（課題探索研究会）

企画委員会の下に、下記 2 つの小委員会（課題探索研究会）を設け、今後の新規研究課題としての研究内容・計画等について検討した。

1) 「多元的世界観の共存とその条件」研究会

中川久定副所長の提案により、副題「閉ざされた世界から開かれた世界へ」をテーマとし研究組織を設け、石川文康東北学院大学教養学部教授を座長に委嘱した。2 月 17 日～18 日に研究会を開催し、次年度の研究課題としての提案の取りまとめを行った。

2) 「生物科学におけるモデルの役割」研究会

金森順次郎所長及び岡田益吉副所長の提案により研究組織を設け、森田敏照大阪工業大学情報科学部教授を座長に委嘱して、11 月 26 日～27 日に研究会を開催した。

基調報告：7 件

3. 財務状況

厳しい経済情勢の下での長期に渡る低金利状況の中で、「資産運用基準」に則って運用収入の確保に努めてきたが、本年度は基本財産及び運用財産のうち高利回り固定金利の債券4件が満期償還を迎え、再運用の結果、運用収入の実績（基本財産利息収入、基本財産配当金収入及び雑収入受取利息の合計）は以下のとおりである。

2003年度実績 165,246千円

2004年度実績 152,828千円

2004年度の当期収支差額（単年度）は、24,617千円であるが、この中には本年度限りの償還差益10,530千円が含まれており、これを除外すると実質34,668千円の赤字を生じた。

今後は、外部資金導入に努めるとともに、管理費等の経費の節減を図ることとしている。

・研究事業

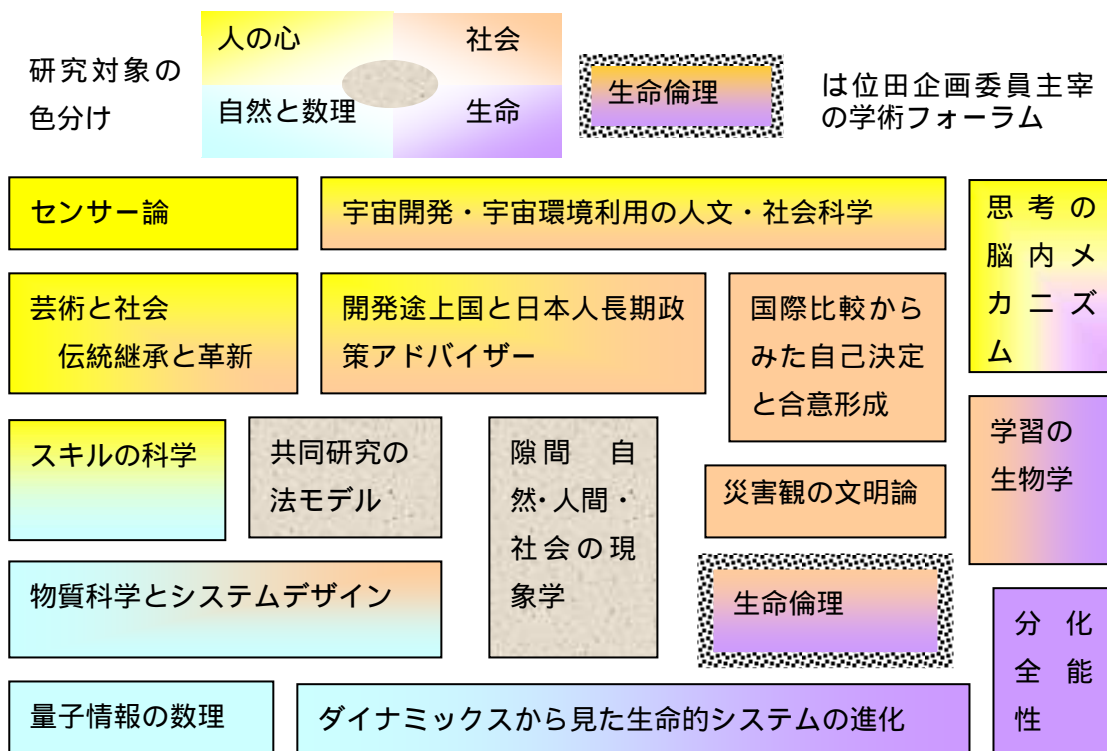
1. 総括

本研究所の研究事業は、人類社会が科学・技術の急速な発展に伴って直面している様々な問題について、人文・社会・自然諸科学の複数の分野にまたがって諸研究機関の組織を横断した研究者集団を組織して、多角的な基礎的研究を行っている。

平成 16 年度は、15 の研究プロジェクトと 2 つの学術フォーラムを実施した。

研究プロジェクトについては以下にその成果を個別に報告するが、その位置付けを略称によって下図に示した。図では研究対象を、人の心、自然と数理、生命、社会、と大別して、色によって区別する。各プロジェクトについて色によってその主とする研究対象を示すと同時に、配置によって隣接プロジェクトとの相互関連の一端を表現した。

人の心では一つには心理、感覚と脳科学、思考、技能との関連について考察を進めるプロジェクトを複数組織した。他方異文化の共存という面で、社会の領域の宇宙ステーションでの閉ざされた国際社会と発展途上国援助での問題の研究に接続している。自然と数理では、物質系では次世代エレクトロニクスの基礎となる電子集団の新しい機能から社会的ニーズにいたる領域、量子状態一般については量子通信とコンピューティングの基礎数理、生命系への接点を求める方向では集団発展(進化)のダイナミクス等をテーマとしたプロジェクトを組織した。他方 生命について生物そのものの研究として細胞の分化と全能性、学習の問題を取り上げるが、後者は 社会の領域の自己決定と合意形成の基礎研究に接続する。図の中央部分はずべての領域にまたがる総合研究を示す。



(1)文部科学省「科学研究費補助金（特定奨励費）」の交付

厳しい経済環境下における研究活動費の確保は重要な課題である。

2004 年度においては、文部科学省から前年度に引き続き、科学研究費補助金「特定奨励費」の交付を受けた。主テーマを「人類社会の調和的発展のための問題解決の統合システム創造に係る基礎研究」として交付申請を行い、科学技術・学術審議会による審査を経て総額 3,900 万円が交付された。

これにより主テーマの下に、総合研究事業として企画委員会の開催、課題研究事業、特別研究事業、学術フォーラムの開催等短期的研究事業、若手研究者を中心とする先端分野ワークショップの開催に関する事業、研究成果の取りまとめ及び学術情報システムの構築に関する事業の推進等、広範な事業の推進を図った。

2. 課題研究

2004 年度における課題研究は、下記のとおり継続 10 課題、及び新規 4 課題の計 14 課題の研究を推進した。

なお、当初計画した「公共部門における人材の配分と育成 - 官僚制の国際比較 - 」については、諸般の事情から活動を休止した。

スキルの科学

思考の脳内メカニズムに関する総合的検討

センサー論

芸術と社会 - 芸術表現における伝統と革新の問題 - (新規課題)

21 世紀の宇宙開発・宇宙環境利用の問題 - 人文社会科学からのアプローチ -

共同研究の法モデル

隙間 - 自然、人間、社会の現象学 - (新規課題)

ダイナミクスからみた生命的システムの進化と意義

- 構造と機能の固定化と変容に関する数理的観点 - (新規

課題)

量子情報の数理

分化全能性 - 普遍性と特異性 -

学習の生物学 (新規課題)

開発途上国と日本人長期政策アドバイザー

災害観の文明論的考察

国際比較からみた日本社会における自己決定と合意形成

各課題研究の概要は以下のとおり。

(1)研究課題名：スキルの科学

研究代表者氏名：岩田 一明 大阪大学・神戸大学名誉教授

研究実績の概要：

本年度では、「文系・理系・人間系の壁を越えた横断的な検討」の第一段階が実施された。本年度の研究会及びコロキウムで発表された専門分野は哲学、芸術、認知心理学、脳科学、情報学、複雑系科学、ロボット工学、身体運動学などに及ぶ。

研究会を通して、異分野の専門家のスキルに対する意識は本質的にかかなり近いこと、体験・経験知の解明には、暗黙的に知っていること〔暗黙知〕への深い理解とともに、形式知との相互変換の方法論が重要であること、今後の理解を進めるに当たっては、認知心理学的アプローチと脳科学的アプローチの融合が求められること、スキルのロボットなど人工物への活用（造の問題）の検討が必要なこと、そして、人間の新たなものの創造、例えば、設計やデザインにおけるスキルの問題の検討が産業界との関連では不可欠なこと、などが共通認識として生起されたといえる。

(2)研究課題名：思考の脳内メカニズムに関する総合的検討

研究代表者氏名：波多野誼余夫 放送大学教授

研究実績の概要：

本年度得られたもっとも重要な知見は、脳画像計測技術と認知心理学的実験を組み合わせることにより、ヒトの推論が単一のシステムでなく、いくつかのシステムにより分担されている、ということである。Vinod Goelの一連の実験では、演繹と帰納、ないし形式的規則のみに基づく推論と個人的経験や個別知識を含む推論で活性化される脳の部位に違いがあることが明らかにされていたが、さらに親近性や感情によっても異なるシステムが働く可能性が指摘された。別の重要な知見は、特徴的な障害を示す患者の詳細な分析などにより、思考と言語の複雑な関連が明らかにされつつあることである。失文法の患者であっても数式の複雑な処理が可能だというMichael Siegalの話題提供があった反面、関連性理論の立場から、談話処理と推論の密接な関係が指摘された。ある種の思考は、言語なしに成立するが、同時に言語により支えられることで大いに促進される型の思考もある、ということである。もうひとつ見のがせないのは、思考と運動やイメージの共通性、差異性が具体的に検討されるようになってきたことである。

(3)研究課題名：センサー論

研究代表者名：鷲田 清一 大阪大学理事・副学長・大学院文学研究科教授

研究実績の概要：

障害の代補として開かれる新たな知覚技法が教えてくれる感覚の可塑的な構造と、武道における「気」の注入の感覚論的構造とを調査・分析した2003年度の成果に基づき、2004年度は、空間知覚と舞踊における「気配」の感知の研究へと、センサーの調査・分析を拡げた。本研究所のもうひとつの研究プロジェクト「スキルの科学」と合同の研究会を開き、舞踊及び伝統工芸の技能伝承の科学的な分析方法について、実例報告に基づき討論した結果、知覚や身体運動を身体感覚器官や運動器官に一对一で対応付けてそれらを分析する手法の方法論的限界が明らかにな

った。その克服には、感覚間のインターフェイスの構造の探究や、中枢 末梢という感覚分析のパラダイムの限界の確認がこれからの課題となった。そのための調査を、年度末に韓国の山中シヤーマンへのヒアリングという形で実施した。

(4)研究課題名：芸術と社会 芸術表現における伝統と革新の問題

研究代表者氏名：佐々木正子 京都造形芸術大学大学院客員教授

研究実績の概要：

本年度は、昨年度の研究を通して得られた、各分野を貫く「共通する部分」の把握を元に、能楽、螺鈿工芸、日本絵画、茶道、華道についての比較研究によって、我が国における文化芸術の伝統の本質と、革新的表現が起こる要素について考察を進めた。

(5)研究課題名：21 世紀の宇宙開発・宇宙環境利用の問題 - 人文社会科学からのアプローチ

研究代表者氏名：木下 富雄 甲子園大学学長・京都大学名誉教授

研究実績の概要：

宇宙環境利用に対する人文社会科学からの接近は、世界でもほとんど行われていない。我々は 4 回にわたる研究会で、この未知の問題に対して多面的な討論を行った。

参加者の学問的背景は、宇宙工学、宇宙物理学、国際法、国際政治、文化人類学、社会学、文学、社会心理学などである。論じられたテーマは次のとおり。1 宇宙の捉え方ないし感じ方の文化による共通点と異質性、2 日本人の宇宙政策の特色、3 ヒトの進化と宇宙進出、4 月面基地建設の可能性と問題点、5 火星の特性と居住可能性。

(6)研究課題名：共同研究の法モデル

研究代表者氏名：北川善太郎 副所長

研究実績の概要：

平成 16 年度には、中国の専門家を迎えて「中国における産学連携と知的財産」研究会を 2 回、IIAS と JICA 共同ワークショップ「技術移転と産学連携」1 回開催した。いずれにおいても先に提案した産学連携高等研モデルが注目を集めるとともに、産学連携についての今後の研究課題が議論された。学術情報システム構築の共同研究として、コピーマート研究所 (CMI) において高等研との共同研究を毎週行った。それを踏まえて高等研の研究部門と事務部門の高等研学術情報システムの構築のための共同研究会を 2 回開催し、平成 17 年度に計画している「学術研究機関における学術情報システムのモデル構築に関する研究」プロジェクトの準備を行った。

(7)研究課題名：隙間 自然、人間、社会の現象学

研究代表者氏名：鳥海 光弘 東京大学大学院新領域創成科学研究科教授

研究実績の概要：

隙間の捉え方及び隙間の内容と意味について紹介と討論を行い、隙間のスペクトラムとして、「ま」、「すきま」、「さけめ」という拡がりを見出した。「ま」は人工的に仕掛けられたリズムをもつすきまだが、「さけめ」は制御不能の危機及び発散するすきまをあらわす。その中間領域に

広く「すきま」が広がると考える。このような概念軸と静動という軸、及び低自由度から高自由度という軸、非機能から非認識という軸も設定可能である。これらの分類の概念軸の上に、次のような識別される隙間が検討された。生の個別性と有限性をつなぐトポスとしての隙間、数理的に可積分系と非可積分系の隙間、知ることの意味と身体性としての科学の意義との隙間、メタファーとして地図に書かれていない隙間と地図と地図の間としての隙間、自然のモデル論と不完全さとしての隙間、健康と病気状態との間の隙間、役割分担とその認識されない隙間、価値を含む知としての信における隙間、住民運動と公共性との隙間、法のけんけつとしての隙間

(8)研究課題名：ダイナミクスからみた生命的システムの進化と意義

・構造と機能の固定化と変容に関する数理的観点

点

研究代表者氏名：津田 一郎 北海道大学大学院理学研究科教授

研究実績の概要：

広範囲にわたる活発な議論が展開されたが、次の問題が追求すべきものとして明確になった。進化における知覚・認知の役割、DNA 以外への情報の固定化の可能性、自然選択のレベル問題として、真社会性昆虫などに見られるような集団選択の可能性、世代重複の進化的意味と寿命の関係、“最適”状態としての平衡状態を仮定する数理モデルへの疑義、さまざまな進化段階での分化のモデルの必要性、“最適”、“適者”、“選択”、“進化”といった恣意的な言葉遣いに対する批判的考察の必要性。

(9)研究課題名：量子情報の数理

研究代表者氏名：大矢 雅則 東京理科大学理工学部教授

研究実績の概要：

本年度、我々はカオス尺度が、この量子テレポーテーションなど量子通信・量子情報において本質的な役割を果たしているエンタングルメントを特徴付ける量となりうることを示した。また、我々は、「一般化された量子 Turing 機械」の概念を提唱し、Ohya-Volovich による SAT アルゴリズムの計算量を厳密に取り扱うことに成功した。さらに、局所場の理論におけるセクター理論は、Ojima によって一般化され、非平衡状態の特徴付けなどさまざまな問題に適用されるに至っている。特に、対称性を破った真空からのゲージ群と量子場代数の再構成は DHR 解析の重要な一般化を得た。

(10)研究課題名：分化全能性 - 普遍性と特異性 -

研究代表者氏名：原田 宏 筑波大学名誉教授

研究実績の概要

このプロジェクトが発足する以前はほとんど情報の交換、交流がなかった動物細胞の分化全能性研究者と植物の対応する研究者の意見交換を引き続き行い、特に分化全能性の普遍性と特異性についての認識を深めることができた。4 回の研究会で取り上げたトピックスは研究会の記録に

記載した。

(11)研究課題名：学習の生物学

研究代表者氏名：星 元紀 慶応義塾大学理工学部教授

研究実績の概要：

本年度は、参加者の相互理解を高めるために、毎回2~3名がそれぞれの分野から「学習」をどのように理解しているかを報告し、それをもとに自由に質疑・討論を重ねてきた。これまでに、日本の教育行政及び教育現場の状況と特徴、脳科学から見た学習研究の現状、言語学習の脳内機構、トリにおける囀りの学習、環形動物（ミミズ）や社会性昆虫（ミツバチ）等における記憶と学習の成り立ち等について検討した。

(12)研究課題名：開発途上国と日本人長期政策アドバイザー

研究代表者名：橋本日出男 大阪大学理事

研究実績の概要：

日本や国際機関から途上国の政府や関係機関に派遣され現地に滞在し、途上国の政策形成に参画した日本人アドバイザーについて、その事蹟の意味と特徴を検討した。その際、日本の近代化の初期、日本が受け入れたお雇外国人との比較をした。また、途上国に対するアドバイザーの草分けである英国人 Dudley Seers の研究を進め、その研究成果を、高等研報告書(0402)「途上国に対する経済政策アドバイザーについて Dudley Seers(1920 1983)を中心として」を上梓した。

次に、我々の経験に基づいて、日本人アドバイザーの質を高める方策を提言するため、資料を調査し問題点を洗い出す作業を行った。

(13)研究課題名：災害観の文明論的考察

研究代表者氏名：小堀 鐸二 京都大学名誉教授

研究実績の概要：

文化財から見た防災意識

日本人の防災意識を人間の精神活動の証である文化財の保全の立場から考察した。最先端の技術が防災に生かされないのは、学術、技術と行政の連携の欠如や社会全体の危機管理意識の希薄さなどがあり、災害に関わる技術者、研究者は安価で効果的な技術開発を行い、行政と連携を図りながらもっと外界に情報発信すべきである。

防災意識を踏まえた教育の視点

地震が起きたらやむを得ないという日本人の災害観を踏まえると、災害意識 制御行動 防災行動にいたるプロセスを奨励するためには、学習、教育が最も効果的で、早期学校教育、家庭教育が特に重要である。中等教育から大学生、社会人を対象とした社会教育プログラムと併せ、総合的な教育プログラムが不可欠となる。

安全・安心の心理学

日本人のリスク認識、評価は日本人独特の自然観や技術観に起因して、自然災害と人為的な災害では大きく異なる。自然災害に対してはリスク認識が甘く、特に災害は人間の力ではどうしようもないという天災論や、災害で死ぬも生きるも運命という運命論が防災・減災の障壁となっている。一方人為的災害に対しての評価は厳しい。一般の人々は科学的安全性の説明だけでは納得しないので、行政への信頼感の醸成や緊急時の対応の充実など社会心理的・政策的配慮が必要となる。

(14)研究課題名：国際比較からみた日本社会における自己決定と合意形成

研究代表者：田中 成明 京都大学大学院法学研究科教授

研究実績の概要

本年度は、自己決定と他の利害・価値との調整あるいは自己決定の支援・補完ということを視野に収めつつ、公共的な議論・決定の制度・手続などに関する原理的・実際の諸問題について、社会的選択理論、リバタリアニズム、関係的権利論的アプローチ、対話的正義論が、それぞれどのような視点からどのような対応をしているかを比較検討し、これらの最近の理論動向が、日本社会の現代的諸条件のもとで、どの程度妥当性をもっており、日本社会における制度・手続の再構築にどのような示唆を与えうるかを討議し、日本社会における自己決定の尊重や社会的合意形成にみられる特徴の析出を試みた。

課題研究実施状況

研究プロジェクトの名称等	研究代表者	参加研究者等	
(1) スキルの科学	岩田 一明 大阪大学名誉教授 神戸大学名誉教授	<参加者> 入来 篤史 馬野 元秀 大須賀公一 小野里雅彦 川野 常夫 榎木 哲夫 白井 良明 白瀬 敬一 高谷 裕浩 田所 諭 谷水 義隆 寺本 孝司 野村 幸正 橋詰 謙 浜田 隆史 福島 真人	23名 東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科教授 大阪府立大学総合科学部教授 神戸大学工学部教授 北海道大学大学院工学研究科教授 摂南大学工学部教授 京都大学大学院工学研究科教授 大阪大学大学院工学研究科教授 神戸大学工学部助教授 大阪大学大学院高学術研究科助教授 神戸大学工学部助教授 大阪府立大学工学部教授 大阪大学大学院工学研究科助手 関西大学文学部教授 大阪大学健康体育部教授 産業技術総合研究所関西センタ 主任研究官 東京大学大学院総合文化研究科助教授
研究会開催状況			
第1回： 2004年4月24日			
第2回： 2004年5月22日			
第3回： 2004年7月24日			
第4回： 2004年9月5日～6日			
第5回： 2004年10月16日			
第6回： 2004年11月27日			
第7回： 2004年12月18日			

<p>第 8 回： 2005 年 1 月 22 日</p> <p>第 9 回： 2005 年 2 月 21 日～22 日</p> <p>第 10 回： 2005 年 3 月 26 日</p> <p>打合せ会合</p> <p>第 1 回： 2004 年 4 月 17 日</p> <p>第 2 回： 2004 年 10 月 9 日</p>		<p>星野 聡子 波多野 誼余夫</p> <p>松尾 知之 横小路 泰義 黒崎 政男 佐々木 正子 吉川 恒夫 吉田 民人</p> <p><話題提供者></p> <p>市原 増夫 神里 志穂子 河井 研介 菊池 誠 小池 稔 小西 和正 戸井 朗人 野口 隆 野口 尚孝 間瀬 俊明 林部 敬吉 平田 謙次 古川 康一 松嶋 隆二 光行 恵司 三輪 眞木子 村田 哲 村上 讓司 村上 正志 山本 祥三</p>	<p>奈良女子大学文学部助手 放送大学教授</p> <p>大阪大学大学院人間科学研究科講師 京都大学大学院工学研究科助教授 東京女子大学教授 京都造形芸術大学客員教授 京都大学大学院工学研究科教授 東京大学名誉教授</p> <p>20名</p> <p>パナソニックデザイン社主幹意匠技師 琉球大学工学部教授 東芝電力システム社技監 神戸大学工学部助教授 産業技術短期大学助教授 機械振興協会技術研究所部長 近畿経済産業局産業部長 三洋電機株式会社課長 北陸先端科学技術大学院大学教授 デジタルプロセス社社長 静岡大学情報学部教授 産業能率大学経営情報学部教授 慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科教授 神戸大学文学部教授 デンソー室長 メディア教育開発センター教授 近畿大学医学部教授 横河電機課長代理 デジタル VEC 事務局長 オムロン株式会社主査</p>
<p>(2)</p> <p>思考の脳内メカニズム</p> <p>研究会開催状況</p> <p>第 1 回： 2004 年 6 月 11 日～12 日</p> <p>第 2 回： 2004 年 10 月 15 日～16 日</p> <p>第 3 回： 2004 年 11 月 26 日～27 日</p> <p>第 4 回： 2005 年 2 月 4 日～5 日</p>	<p>波多野 誼余夫 放送大学教授</p>	<p><参加者></p> <p>浅田 稔 乾 敏郎 板倉 昭二 入来 篤史</p> <p>梅田 聡 大津由紀雄 開 一夫 國吉 康夫</p> <p>齋木 潤 田中 茂樹 田邊 敬貴 銅谷 賢治</p> <p>藤田 和生</p>	<p>14名</p> <p>大阪大学大学院工学研究科教授 京都大学大学院情報学研究科教授 京都大学大学院文学研究科助教授 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授 慶應義塾大学文学部助手 慶應義塾大学言語文化研究所教授 東京大学大学院総合文化研究科助教授 東京大学大学院情報理工学系研究科助教授 京都大学大学院情報学研究科助教授 仁愛大学人間学部助教授 愛媛大学医学部教授 ATR 人間情報通信研究所主任研究員</p> <p>京都大学大学院文学研究科教授</p>

		<p>本田 学 <話題提供者> 今井 邦彦 ゴ-ル,ガイド シ-ゲル,ミカエル 西山 佑司 リー カン <研究協力者> 今水 寛 岩田 一明 花川 隆</p>	<p>自然科学研究機構生理学研究所助教授 5名 学習院大学文学部教授 ヨーク大学教授 シェフィールド大学教授 慶應義塾大学言語文化研究所教授 カリフォルニア大学サンディエゴ校教授 3名 ATR 脳情報研究所室長 大阪大学名誉教授 京都大学助手</p>
<p>(3) センサー論</p> <p>研究会開催状況 第1回: 2004年7月11日 第2回: 2004年12月18日 韓国現地調査 2005年3月17日~22日</p>	<p>鷲田 清一 大阪大学理事・副学長 大学院文学研究科教授</p>	<p><参加者> 浅田 稔 栗山 茂久 小浦 久子 佐々木正人 高安真里子 中野 善浩 橋本 毅彦 村田 純一 村松 澄子 矢野 智 山極 寿一 <話題提供者> 神里志穂子 林部 敬吉 <研究協力者> 青木 宗義 アルバート,ウイリアム 浅井健一郎 足立 裕子 大歳 芽里 片寄 晴弘 栗林 萌 阪本 摩耶 佐藤 蓉子 仁里 文美</p>	<p>11名 大阪大学大学院工学研究科教授 国際日本文化研究センター助教授 大阪大学大学院工学研究科助教授 東京大学大学院情報学環教育学 研究科教授 臨床心理士・ダンスセラピスト ヒューマンネットワークス研究所主任研究員 東京大学先端科学技術研究センター教授 東京大学大学院総合文化研究科教授 山口大学理学部助教授 オムロン株式会社技術本部主幹 京都大学大学院理学研究科教授 2名 琉球大学工学部教授 静岡大学情報学部教授 10名 アシスタント・ダンスインストラクター 映像作家 京都大学大学院博士課程 アシスタント・ダンスインストラクター アシスタント・ダンスインストラクター 関西学院大学大学院博士課程 アシスタント・ダンスインストラクター アシスタント・ダンスインストラクター アシスタント・ダンスインストラクター 金城大学大学院博士課程</p>
<p>(4) 芸術と社会</p> <p>研究会開催状況 全体研究会 2004年4月10日 能楽研究会</p>	<p>佐々木正子 京都造形芸術大学 大学院客員教授</p>	<p><参加者> 喜多村明里 北村 照斎 熊倉 功夫 金春 康之 佐々木丞平 中川 久定</p>	<p>9名 兵庫教育大学学助教授 漆芸作家(螺鈿工芸)・人間国史 林原美術館館長 能楽師・金春流シテ方 京都大学大学院文学研究科教授 国際高等研究所副所長</p>

<p>第 1 回 : 2004 年 5 月 16 日 第 2 回 : 2004 年 5 月 22 日 第 3 回 : 2004 年 5 月 30 日 第 4 回 : 2004 年 6 月 13 日 第 5 回 : 2004 年 6 月 27 日 第 6 回 : 2004 年 7 月 18 日 第 7 回 : 2004 年 11 月 6 日 万技能楽調査 2004 年 7 月 30 日 ~ 8 月 10 日 伝統工芸研究会 第 1 回 : 2004 年 9 月 4 日 第 2 回 : 2004 年 11 月 1 日 第 3 回 : 2004 年 12 月 23 日 日本絵画研究会 第 1 回 : 2004 年 10 月 11 日 第 2 回 : 2004 年 11 月 3 日 茶道研究会 第 1 回 : 2004 年 10 月 30 日 第 2 回 : 2004 年 11 月 20 日 華道研究会 2004 年 1 月 15 日</p>		<p>フィスター、パトリシア 国際日本文化研究センター助教授 本田 清 横浜国立大学非常勤講師 ヨリツシ、エンゲルハルト 京都大学大学院人間・環境学研究科 助教授 <話題提供者> 2 名 岡崎 貴子 嵯峨御流華道芸術学院教授 横田八重美 今日庵文庫課長 <研究協力者> 2 1 名 粟辻 敦子 デザインコーディネーター 粟辻 順恭 粟辻アート・インクッション代表 岩田 一明 大阪大学・神戸大学名誉教授 上村花保史 染織家 岡崎 貴子 嵯峨御流華道芸術学院教授 勝真 敦子 金春流働き方 河原 英紀 和歌山大学システム工学部教授 上林 紀子 関西外国語大学短期大学部講師 後安 美紀 元駿河台大学講師 佐野 玉緒 銀閣寺花方 柴沼 裕子 裏千家茶道家 函子まり絵 日本画家 寺本 孝司 大阪大学大学院工学研究科助手 中辻 憲夫 京都大学再生医科学研究所所長 中辻 孝子 静岡大学理学部教授 永田 和宏 京都大学再生医科学研究所教授 林 基子 華道アソシアト 正畠 安子 裏千家茶道家 安田 俱子 ソンタ前会長 山口 悦子 能面作家 吉岡健二郎 静岡県立美術館館長</p>
<p>(5) 21 世紀の宇宙開発・ 宇宙環境利用の問題 研究会開催状況 第 1 回 : 2004 年 6 月 5 日 第 2 回 : 2004 年 7 月 31 日 第 3 回 :</p>	<p>木下 富雄 甲子園大学学長 京都大学名誉教授</p>	<p><参加者> 1 1 名 青木 節子 慶應義塾大学総合政策学部教授 岡田 益吉 国際高等研究所副所長 ゴッソ、アヌ 同志社大学言語文化教育研究センター教授 小林 道夫 大阪市立大学文学部教授 清水順一郎 JAXA 宇宙環境利用センター参事 城山 英彦 東京大学大学院法学政治学研究科助教授 鈴木 一郎 筑波大学社会科学系専任講師 谷 泰 京都大学名誉教授 中川 久定 国際高等研究所副所長</p>

<p>2004年11月6日 第4回： 2005年2月19日</p>		<p>中谷 和弘 東京大学大学院法学政治学研究科教授 吉田 民人 東京大学名誉教授 <話題提供者> 9名 逢阪 卓郎 筑波大学教授 秋丸恵理佳 (株)カルディオ神戸研究所研究員 井手 亜里 京都大学教授 内富 素子 宇宙航空研究開発機構 佐々木 晶 国立天文台教授 佐藤 雅彦 宇宙航空研究開発機構課長 マウジジャーナル、トウカ 甲子園大学助手 松本 信二 CSP ジャパン社長・宇宙建築家 的川 泰宣 宇宙航空研究開発機構教授</p>
<p>(6) 共同研究の法モデル</p> <p>研究会開催状況 第1回： 2004年7月9日 第2回： 2004年11月19日 第3回： 2005年1月21日 第3回： 2005年2月19日</p>	<p>北川善太郎 国際高等研究所副所長</p>	<p><参加者> 9名 上野 達也 立教大学法学部助教授 木下 孝彦 比較法研究センター主任研究員 中林 良純 国際高等研究所特別研究員 松井 章浩 国際高等研究所特別研究員 三浦 武範 北ノマート名城研究所研究員 水野 五郎 北ノマート名城研究所研究員 宮田 英治 比較法研究センター研究員 宮脇 正晴 立命館大学法学部助教授 山名 美加 大阪工業大学知的財産助教授 <話題提供者> 2名 クリ、ハトリオ チリ ASIVA 企業振興協会法務部部長 ルイ, Xiaofeng 北京大学知的財産権学院副教授 <研究協力者> 5名 江口 順一 帝塚山大学教授 小倉 啓七 奈良先端科学技術大学院大学客員助教授 村上 広一 名城大学講師 村上 広一 名城大学講師 季 衛東 神戸大学大学院教授</p>
<p>(7) 隙間</p> <p>研究会開催状況 第1回： 2004年5月7日～8日 第2回： 2004年8月17日～24日 第3回： 2004年11月19日～21日</p>	<p>鳥海 光弘 東京大学大学院 新領域創成研究科教授</p>	<p><参加者> 12名 伊藤 伸泰 東京大学大学院工学研究科助教授 大坂 元久 日本医科大学老人病研究所助教授 神谷 和也 東京大学教授 儀我 美一 北海道大学教授 木田 重雄 京都大学教授 鬼頭 秀一 東京農工大学教授 熊野 純彦 東京大学大学院人文社会研究科助教授 西森 拓 大阪府立大学大学院工学研究科助教授 似田貝香門 東京大学大学院人文社会系研究科教授 松永 澄夫 東京大学大学院人文社会系研究科教授 森反 章夫 東京経済大学現代法学部助教授 吉田 善章 東京大学大学院新領域創成科学研究科</p>

		<p>教授</p> <p><研究協力者> 23名</p> <p>合原 一幸 東京大学生産技術研究所教授</p> <p>荒谷 大輔 東京大学大学院人文社会系研究科 OD</p> <p>伊東 俊彦 東京大学大学院人文社会系研究科 博士課程</p> <p>上田 彰 大阪府立大学大学院工学研究科博士課程</p> <p>上村 淳 東京大学大学院工学系研究科修士課程</p> <p>大崎 秀一 東京大学大学院大学院新領域創成科学研究科助手</p> <p>小串 典子 東京大学大学院工学研究科修士課程</p> <p>越門 勝彦 東京大学大学院人文社会系研究科 博士課程</p> <p>酒井 俊元 東京大学大学院新領域創成科学研究科 博士過程</p> <p>白石 淳也 東京大学大学院新領域創成科学研究科 博士課程</p> <p>鈴木 将 東京大学大学院大学院工学系研究科 博士課程</p> <p>田尾 知巳 大阪府立大学大学院工学研究科研究員</p> <p>中野 剛宏 東京大学大学院新領域創成科学研究科 博士課程</p> <p>西山 志保 日本学術振興会特別研究員</p> <p>原 一樹 東京大学大学院人文社会系研究科博士 課程</p> <p>古川 勝 日本学術振興会特別研究員</p> <p>堀 暖 東京大学大学院新領域創成科学研究科 博士課程</p> <p>マチュリス, H.G 電気通信大学助教授</p> <p>松永 澄夫 東京大学大学院人文社会系研究科教授</p> <p>三井 さよ 法政大学社会学部専任講師</p> <p>山口 裕之 徳島大学助教授</p> <p>湯川 諭 東京大学大学院工学系研究科助手</p> <p>吉岡 直樹 東京大学大学院工学系研究科修士課程</p>
<p>(8)</p> <p>ダイミックスからみた 生命的システムの進化と意義</p> <p>研究会開催状況</p> <p>第1回： 2004年5月18日～19日</p> <p>第2回： 2004年8月8日～11日</p> <p>第3回： 2004年11月16日～17日</p>	<p>津田 一郎 北海道大学 大学院理学研究科教授</p>	<p><参加者> 16名</p> <p>浅田 稔 大阪大学大学院工学研究科教授</p> <p>池上 高志 東京大学大学院総合文化研究科助教授</p> <p>伊藤 浩之 京都産業大学情報通信工学科教授</p> <p>金子 邦彦 東京大学大学院総合文化研究科教授</p> <p>河本 英夫 東洋大学文学部教授</p> <p>菊池 誠 大阪大学サイル-メディアセンター教授</p> <p>櫻井 芳雄 京都大学大学院文学研究科教授</p> <p>佐藤 哲 東京工業大学大学院生命理工学研究科 特別研究員</p> <p>下原 勝憲 ATR 人間情報通信研究所所長</p>

		<p>高木 由臣 奈良女子大学理学部教授 時田恵一郎 大阪大学サイバーメディアセンター助教授 西尾章治郎 大阪大学教授 東 正剛 北海道大学大学院地球環境科学研究科教授 藤本 仰一 東京大学大学院総合文化研究科助手 四方 哲也 大阪大学大学院情報科学研究科助教授 安富 歩 東京大学情報学環助教授 <話題提供者> 4名 佐々木正己 玉川大学農学部教授 澤口 俊之 北海道大学教授 澤田 康次 東北工業大学教授 伏見 謙 埼玉大学教授 <研究補助者> 6名 黒田 拓 北海道大学大学院理学研究科 佐藤 哲 東京工業大学大学院特別研究員 深尾 葉子 大阪外国語大学助教授 松本 和宏 北海道大学大学院理学研究科修士課程 山口 裕 北海道大学大学院理学研究科博士課程 吉川雄一郎 大阪大学大学院工学研究科博士課程</p>
<p>(9) 量子情報の数理</p> <p>研究会開催状況 第1回： 2004年7月2日～3日 第2回： 2004年9月11日 第3回： 2004年11月19日～21日 第4回： 2005年3月12日～13日</p>	<p>大矢 雅則 東京理科大学工学部 教授</p>	<p><参加者> 12名 明石 重男 東京理科大学工学部教授 岡部 靖憲 東京大学大学院工学研究科教授 尾畑 伸明 東北大学大学院理学研究科教授 久保 泉 広島大学大学院理学研究科教授 小嶋 泉 京都大学数理解析研究所助教授 斉藤 公明 名城大学工学部教授 シ シ 愛知県立大学助教授 田崎 秀一 早稲田大学工学部教授 飛田 武幸 名古屋大学名誉教授 檀田 倍之 熊本大学理学部教授 松岡 隆志 諏訪東京理科大学経営情報学部講師 渡邊 昇 東京理科大学工学部助教授 <話題提供者> 3名 アガテ イ、ルイジ ローマ第二大学教授 フィッシャー、カール H. フント リッヒ・スファラ 大学教授 ホーレ ヴァ、イグーネー Stoklow 数学研究所 <研究協力者> 7名 入山 聖史 東京理科大学工学部助手 清水 哲二 名城大学研究員 高田 俊和 日本電気基礎環境研究所主席研究員 松岡 隆志 諏訪東京理科大学講師 宮下 真行 東京理科大学大学院工学研究科 博士課程 宮寺 隆之 東京理科大学工学部助手</p>

		宮崎 智	東京理科大学理工学部助教授
(10) 分化全能性	原田 宏 筑波大学名誉教授	<参加者> 阿形 清和 岡田 益吉 鎌田 博 京 正晴 小林 悟 佐藤 文彦 丹羽 仁史 高畑 公紀 <話題提供者> 浦 聖恵 斎藤 通紀 佐藤 忍 田坂 昌生 西井 一郎 福田 裕穂 眞貝 洋一	8名 理研発生・再生科学総合研究センターグループ長 国際高等研究所副所長 筑波大学生物科学系教授 香川大学農学部助教授 自然科学研究機構基礎生物学研究所教授 京都大学大学院生命科学研究所教授 理研発生・再生科学総合研究センターグループ 京都大学大学院生命科学研究所 7名 大阪大学大学院医学系研究科助手 理化学研究所理化学研究所 哺乳類生殖細胞研究チーム・グループ 筑波大学生物科学系教授 奈良先端科学技術大学院大学教授 理化学研究所西井独立主幹研究ユニット 東京大学大学院理学系研究科教授 京都大学ウイルス研究所教授
(11) 学習の生物学 4回開催	星 元紀 慶應義塾大学理工学部 教授	<参加者> 入来 篤 岡 浩太郎 岡田 益吉 岡ノ谷一夫 苧阪 直行 風間 晴子 金子 邦彦 苅谷 剛彦 久保 健雄 小泉 英明 佐々木正己 永野 博 萩原 裕子 長谷川真理子 松田 良一 <話題提供者> かゝい、いん メンベル、ホルフ	15名 東京医科歯科大学大学院医歯学総合 研究科教授 慶應義塾大学理工学部助教授 国際高等研究所副所長 千葉大学文学部助教授 京都大学大学院文学研究科教授 国際基督教大学教養学部教授 東京大学大学院総合文化研究科教授 東京大学大学院教育学研究科教授 東京大学大学院理学研究科教授 日立製作所研究開発本部フェロー 玉川大学農学部教授 文科省科学技術政策研究所所長 東京都立大学大学院文学研究科助教授 早稲田大学政治経済学部教授 東京大学大学院総合文化研究科助教授 2名 The New Curiosity Shop 代表 ベルリン自由大学教授
(12) 発展途上国と日本人 長期政策アドバイザー	橋本日出男 大阪大学理事	<参加者> 上野 宏 菊池 剛	9名 神戸大学教授 (株)日本開発サービス

<p>研究会開催状況 第1回： 2004年6月5日 第2回： 2004年10月9日 第3回： 2005年3月5日</p>		<p>下田 道敬 田中 哲二 舟橋 学 松井 和久 山田 泰造 森 裕之 和田 正武</p>	<p>JICA 大阪国際センター専門員 政策研究大学院大学客員教授 JICA 国際総合研修所専門員 JETRO 地域研究センター参事 ICA 国際総合研修所専門員 JICA アジア・中近東・欧州部課長代理 帝京大学経済学部教授</p>
<p>(13) 災害観の 文明論的考察</p> <p>研究会開催状況 第1回： 2004年10月12日 第2回： 2004年12月20日</p>	<p>小堀 鐸二 京都大学名誉教授</p>	<p><参加者> 石川 考重 廣井 脩 倉田 成人 白石 真澄 鈴木 浩平 鈴木 祥之 土岐 憲三 中川 久定 布村 明彦 宮村 正光 室崎 益輝</p>	<p>11名 日本女子大学家政学部教授 東京大学社会情報研究所教授 鹿島建設小堀研究所 東洋大学経済学部助教授 東京都立大学大学院工学研究科教授 京都大学防災研究所教授 京都大学名誉教授 国際高等研究所副所長 内閣府参事官 鹿島建設 神戸大学大学院工学研究科教授</p>
<p>(14) 国際比較からみた 日本社会における 自己決定と合意形成</p> <p>研究会開催状況 2005年1月9日</p>	<p>田中 成明 京都大学理事・副学長 大学院法学研究科教授</p>	<p><参加者> 猪木 武徳 笠井 正俊 桂木 隆夫 亀本 洋 佐藤 幸治 土井 真一 中山 竜一 服部 高宏 平井 亮輔 平野 仁彦 山本 敬三 若松 良樹 <話題提供者> 嶋津 格 野崎亜紀子 <研究協力者> 川濱 昇 酒匂 一郎 高井 裕之 高橋 文彦 竹中 勲 中山 竜一 中山 茂樹</p>	<p>12名 国際日本文化研究センター教授 京都大学大学院法学研究科教授 成蹊大学法学部教授 京都大学大学院法学研究科教授 近畿大学法学部教授 京都大学大学院法学研究科助教授 大阪大学大学院法学研究科助教授 京都大学大学院法学研究科教授 京都工芸繊維大学工芸学部助教授 立命館大学大学院法務研究科教授 京都大学大学院法学研究科教授 成城大学法学部教授 2名 千葉大学大学院専門法務研究科教授 広島市立大学国際学部専任講師 11名 京都大学大学院法学研究科教授 九州大学大学院法務学府教授 京都産業大学法学部教授 関東学院大学法学部教授 同志社大学大学院法科研究科教授 大阪大学大学院法学研究科助教授 京都産業大学助教授</p>

		平野 敏彦	広島大学大学院法務研究科教授
		守屋 明	関西学院大学法学部教授
		山田八千子	中央大学大学院法務研究科助教授
		山本 顕治	神戸大学大学院法学研究科教授

3. 特別研究

「特別研究」とは、他の学術関係機関等の事業主体が行う研究プロジェクトと緊密に連携して実施される研究プロジェクトであって、研究経費は本研究所と他の事業主体が負担し、課題研究と異なる研究の推進体制や枠組を設けて実施するものである。

2004年度は、2001年度から開始した「物質科学とシステムデザイン - 次世代エレクトロニクスの構築を目指して - 」を継続事業として推進した。概要は以下のとおり。

(1) 研究課題名：物質科学とシステムデザイン - 次世代エレクトロニクスの構築を目指して -

研究代表者：金森順次郎 所長

研究実績の概要：

2001年度発足し、2004年度で終了した本研究は日本学術振興会研究開発専門委員会「物質科学とシステムデザイン」(委員長金森順次郎)の調査研究をより多数の研究者の参加を得て拡大補完するプロジェクトでスピエレレクトロニクスと有機分子エレクトロニクスの全般にわたって討論を重ね、今後の研究方向について、日本学術振興会及び第3期科学技術基本計画への提言をまとめた。多岐にわたる内容であるので詳細は報告書に譲る。

高等研報告書 403 金森順次郎編「物質科学とシステムデザイン」2005年

特別研究実施状況

研究プロジェクトの名称等	研究代表者	参加研究者等	
物質科学とシステムデザイン	金森順次郎 国際高等研究所所長	<参加者> 池田 順治 石田 修一 遠藤 康夫 北川善太郎 齋藤 軍治 志水 隆一 新庄 輝也 高尾 正敏 高柳 英明 中村 洋一 仲田 周次 吉田 博	12名 松下電工株式会社融合技術研究所部長 東芝生産技術センター所長 東北大学名誉教授 国際高等研究所副所長 京都大学大学院理学研究科教授 大阪工業大学情報科学部教授 国際高等研究所上級研究員 松下電器産業株式会社総括担当参事 NTT 物性科学基礎研究所所長 松下電器産業先端実装技術研究所所長 大阪大学名誉教授 大阪大学産業科学研究所教授
研究会開催状況		<話題提供者> 石井 久夫	25名 東北大学電気通信研究所助教授
第1回： 2004年4月5日(幹事会)		石田 敬雄	産業技術総合研究所
第2回： 2004年6月24日			
第3回： 2004年6月25日～26日			
第4回： 2004年8月26日			
第5回： 2004年8月27日(幹事会)			
第6回：			

2004年9月3日
 第7回：
 2004年9月9日
 第8回：
 2004年9月24日～25日
 第9回：
 2004年12月3日～4日
 第10回：
 2004年12月17日
 招聘学者共同研究
 2004年10月19日～27日
 第11回：
 2005年1月8日
 第12回：新企画幹事会
 2004年2月10日
 第13回：新企画研究会
 2003年3月14日
 第14回：新企画研究会
 2003年3月23日

主査

石谷 明彦	Interuniversity MicroElectronics Center 代表
上田 昌宏	大阪大学大学院生命機能研究科 博士研究員
岡本 和也	Nikon Research Corporation of America 副社長
小柳 光正	東北大学大学院工学研究科教授
齋藤 英治	慶應義塾大学理工学部助手
佐久間昭正	東北大学大学院工学研究科教授
桜井 貴康	東京大学国際・産学共同研究センター教授
佐藤 和則	大阪大学産業科学研究所助手
新田 淳作	NTT 物性科学基礎研究所グループリーダー
新海 征治	九州大学大学院工学研究科教授
高橋 健司	(株)東芝半導体組立技術部
多々良 源	大阪大学大学院理学研究科助手
田中 雅明	東京大学大学院工学系研究科助教授
永長 直人	東京大学大学院工学系研究科教授
長谷川達生	産業技術総合研究所 強相関電子技術研究センターチーム長
春山 哲也	九州工業大学大学院生命体工学研究科 教授
別所 信夫	J S R (株)取締役・研究開発部長
堀内佐智雄	産業技術総合研究所 強相関電子技術研究センター研究員
前川 繁登	ルネサステクノロジ生産技術本部
水谷 文雄	産業技術総合研究所 ゲノムファクトリー研究部門部門長
森川 良忠	大阪大学産業科学研究所助教授
矢野 雅文	東北大学電気通信研究所教授
四方 哲也	大阪大学大学院工学研究科助教授
<招聘研究者>	2名
川崎 恭治	九州大学名誉教授
金 峰秀	韓国昌原大学教授
<システムデザイン分科会>	22名
仲田 周次	大阪大学名誉教授
渥美幸一郎	東芝経営企画部次長
荒井 栄司	大阪大学大学院工学研究科教授
安藤 鉄男	東芝実装技術研究センター長
岩田 剛治	大阪大学先端科学技術研究センター助手
大嶋 洋一	経済産業省特許庁審査官
岡本 和也	Nikon Research Corporation of America
大平 文和	香川大学工学部教授
河合 章	経済産業省特許庁審判長
座古 勝	大阪大学大学院工学研究科教授
佐藤 了平	大阪大学先端科学イノベーションセンター教授
正城 敏博	大阪大学先端科学技術研究センター助教授
西田 一人	松下電器産業先端実装技術研究所
西尾章治郎	大阪大学サイバーメディアセンター教授

	樋口 勝敏	東芝プロセス研究センタ長
	藤本 公三	大阪大学先端科学技術研究センター教授
	堀江 聡	松下電器産業生産革新本部
	盆子原 學	ザイキューブ代表取締役社長
	前川 繁登	ルネサステクノロジ生産技術本部
	松澤 昭	東京工業大学大学院理工学研究科教授
	<有機・分子外科学分科会> 8名	
主査	齋藤 軍治	京都大学大学院理学研究科教授
	芦田 昌明	大阪大学大学院基礎工学研究科助教授
	石黒 武彦	同志社大学教授・京都大学名誉教授
	白杵 達哉	富士通研究所研究員
	高尾 正敏	松下電器産業中尾研究所総括担当参事
	十倉 好紀	東京大学大学院工学研究科教授
	松川 望	松下電器産業株式会社 先端技術研究所研究員
	三谷 洋興	北陸先端科学技術大学院大学教授
	森田 雅夫	NTT 物性科学基礎研究所 量子光物性研究部長
	<量子光学科学分科会> 10名	
主査	吉田 博	大阪大学産業科学研究所教授
	芦田 昌明	大阪大学大学院基礎工学研究科助教授
	石黒 武彦	同志社大学ハイマニティ・セキリティ研究センター教授
	白杵 達哉	富士通研究所研究員
	梅村 敏夫	三菱電機先端技術総合研究所次長
	小野 輝男	京都大学化学研究所教授
	十倉 好紀	東京大学大学院工学研究科教授
	永長 直人	東京大学大学院工学系研究科教授
	新田 淳作	NTT 物性科学基礎研究所グループリーダー
	二瓶 史行	日本電気基礎研究所主任研究員
	樋口 勝敏	東芝生産技術センター主任研究員

4. 共同研究

2003 年度に締結した京都大学数理解析研究所との「共同研究に関する協定」に基づく 2004 年度事業について、研究集会等の活動実績について特記事項なし。

5. 協力研究

(1) 奈良女子大学との協力研究

奈良女子大学からの協力要請に基づき、同大学文学部が主催する研究集会に対する協力体制を整え、協力研究を推進した。主テーマを「歴史的概念としての『日本』の形成と変容」として、2005 年 1 月 8 日に研究会を開催した。

6. 学術フォーラム

「学術フォーラム」は、当研究所の研究活動にかかわった研究者からの提案に基づき、研究事業と関連性の高いピックスを取り上げて実施するものであり、2004年度においては、下記2テーマによるフォーラムを実施した。

(1) 「水」フォーラム

井口洋夫学術参与の提案に基づき、期待される地球規模の水の分布の完全な把握とその利用方法について、2回にわたり研究討議を行った。

第1回フォーラム：7月24日～25日

主なテーマ：「水とは何か」、「地球と水」

第2回フォーラム：2005年1月25日～26日

主なテーマ：「水の科学：水の分布、海、水素結合」

(2) 「科学と技術のはざま」フォーラム：11月26日～27日

伊藤厚子、遠藤康夫、澤田康次、新庄輝也、本河光博各フェローを世話人として、「研究と大学院教育・主として物性物理、物質科学、材料科学の分野を対象とする。」をテーマに開催した。

(3) 「先端生命科学・医療研究における倫理規範・制度モデルの構築」フォーラム

位田隆一企画委員の提案に基づき、生命科学と社会の現実の関係を社会規範の面から把握して、社会の変動に対応した新しい社会規範の構築、さらには人間社会と科学技術の新しい関係を模索することを目的としたフォーラムを2回開催した。

第1回フォーラム：2005年1月28日～29日

主なテーマ：「ヒト胚の研究利用を中心に」

第2回フォーラム：2005年3月23日

主なテーマ：「生命倫理の新しい法政策」

(4) 「Nuclear Bound States of the Two Nambu-Goldstone Bosons (Pions and Kaons)」：11月24日

山崎敏光フェローの提案に基づき、標記をテーマに開催した。

学術フォーラム実施状況

研究プロジェクトの名称等	研究代表者	参加研究者等	
(1) 「水フォーラム」 フォーラム開催状況 第1回： 2004年7月24日～25日 第2回： 2005年1月25日～26日	井口 洋夫 東京大学名誉教授 宇宙航空研究開発機構 顧問	<参加者> 井口 俊夫 大築二三夫 大峰 巖 岡田 益吉 小川 利紘 沖 大幹 梶本 興亜 川村 宏	18名 情報通信研究機構グループリーダー 宇宙航空研究開発機構センター長 名古屋大学大学院理学研究科教授 国際高等研究所副所長 宇宙航空研究開発機構技術参与 東京大学生産技術研究所助教授 京都大学大学院理学研究科教授 東北大学大学院工学系研究科教授

		<p>小池 俊雄 東京大学大学院工学系研究科教授 斎藤 真司 宇宙航空研究開発機構参事 才野 敏郎 名古屋大学地球水循環研究センター教授 清水順一郎 宇宙航空研究開発機構参事 實 馨 京都大学防災研究所教授 田中 佐 宇宙航空研究開発機構主任研究員 中尾 真一 東京大学大学院工学系研究科教授 廣田 襄 宇宙航空研究開発機構参事 藤森 義典 宇宙航空研究開発機構参事 八木 達彦 静岡大学名誉教授</p>
<p>(2) 「科学と技術のはざまフォーラム」 フォーラム開催状況 2004年11月26日～27日</p>	<p>伊藤 厚子 お茶の水女子大学 名誉教授 遠藤 康夫 東北大学名誉教授 澤田 康次 東北大学名誉教授 新庄 輝也 京都大学名誉教授 本河 光博 東北大学名誉教授</p>	<p><参加者> 13名 北澤 宏一 科学技術振興機構専務理事 興地 斐男 大阪大学名誉教授 小林 俊一 東京大学名誉教授 澤田 康次 東北工業大学教授 潮田 資勝 東北大学電気通信研究所教授 高尾 正敏 松下電器産業中尾研究所総括参事 玉尾 皓平 京都大学化学研究所教授 壽榮松宏仁 JASRI 利用研究促進部門長 外村 彰 日立製作所フェロー 那須 三郎 大阪大学大学院基礎工学研究科教授 福山 秀敏 東北大学金属材料研究所教授 前川 禎通 東北大学金属材料研究所教授 吉田 博 大阪大学際偉業科学研究所教授</p>
<p>(3) 「先端生命科学・医療研究における倫理規範・制度モデルの構築」 フォーラム開催状況 第1回： 2005年1月28日～29日 第2回： 2005年3月23日</p>	<p>位田 隆一 京都大学大学院法学 研究科教授</p>	<p><参加者> 13名 浅井 篤 熊本大学大学院医学薬学研究科教授 江川 裕人 京都大学大学院医学研究科助教授 加藤 和人 京都大学大学院人文科学研究科助教授 加ヌ,トナルト 夕ヌア大学法学部教授 カノ,テリ-S.H. シカゴ国立大学法学部助教授 加ト,レナルト フィルン大学哲学科教授 熊谷 健一 九州大学大学院法学研究院教授 玉井 真理子 信州大学医学部助教授 菱山 豊 政策研究大学院大学政策研究科教授 増井 徹 国立医薬品食品衛生研究所主任研究官 森崎 隆幸 国立循環器病センター研究所部長 山内 正剛 放射線医学総合研究所主任研究員 Alireza Bagherichimeh 筑波大学大学院人間総合科学研究科博士課程</p>
<p>(4) Nuclear Bound States of the</p>	<p>山崎 敏光</p>	<p><参加者> 9名 赤石 義紀 高エネルギー加速器研究機構名誉教授</p>

Two Nambu-Goldstone Bosons	東京大学名誉教授 理化学研究所研究 嘱託	岩崎 雅彦 Paul Kienle 国広 悌二 土岐 博 土手 昭伸 早野 龍五 比連崎 悟 南部陽一郎	理化学研究所主任研究員 ミュンヘン工科大学教授 京都大学基礎物理学研究所教授 大阪大学核物理研究センター長 日本学術振興会特別研究員 東京大学大学院理学研究科教授 奈良女子大学理学部助教授 シカゴ大学名誉教授
フォーラム開催状況 2004年11月24日			

7. 共催事業

「共催事業」は、国内外の大学や学術研究機関等が企画する研究事業の実施提案を受けて、本研究所の理念に照らして実施することが有意義と認められる場合、協力して実施する事業であり、2004年度においては、下記の2機関との共催事業を実施した。

(1) 大阪大学との共催事業

「International Conference on Nanospintronics Design and Realization (ICNDR 2004)」:
5月23日～29日

(2) フンボルト財団との共催事業

2003年3月14日に締結したドイツ・フンボルト財団 (Alexander von Humboldt-Stiftung) との覚書に基づき、2件の研究集会を開催した。

国際カンファレンス "The Public Sector in Transition: East Asia and the European Union Compared": 10月16日

シンポジウム「日本にとってのドイツ法学とは? - 民法の場合 - 」: 2005年3月26日

. 「学者村」の活性化

1. 「フェロー (IIAS Fellow)」事業

本研究所における優れた研究環境を醸成し、研究活動の活性化を図るため、国内外の卓越した研究者を「フェロー (IIAS Fellow)」として招へいする本制度に基づき、2004年度においては、国内外から10名を招へいした。

フェローは、本研究所において小規模研究会を開催するなど、自らの研究を推進するとともに、企画委員会に出席して本研究所の研究活動に資する提言や意見交換を行った。

2004年度フェロー

足立 裕彦 京都大学名誉教授 (量子化学)
川北 稔 大阪大学名誉教授 (イギリス史)
後藤 誠一 大阪大学名誉教授 (応用物理学・プラズマ理工学)
沢田 康次 東北工業大学教授・東北大学名誉教授 (情報物理学)
ペーター H. デドリッヒ ドイツ原子力研究機構固体物理研究所主任研究

- 中島 泉 名古屋大学理事・副総長（免疫学）
 西島 安則 京都大学名誉教授（高分子化学）
 藤村 靖 米国オハイオ州立大学名誉教授（音声言語学）
 山口 修 大阪大学名誉教授（民族音楽学）
 吉田 忠 東北大学名誉教授（科学史）

2. 上級研究員制度の新設

国内外の優れた研究者に研究の場を提供し、本研究所の研究活動の一層の活性化を図ることを目的として、新たに上級研究員（IIAS Senior Researcher）制度を2005年1月に設けた。上級研究員は、自らの研究を進めるとともに他の研究者との研究交流を通じて、本研究所の研究活動を推進するものである。

本制度に基づき、2004年2月1日に新庄輝也京都大学名誉教授に上級研究員を委嘱した。同上級研究員は、2005年度から始まる新規特別研究の企画・準備を進めた。

・専門的人材育成事業

1. コンピュータシヨナル・マテリアルズ・デザイン（CMD）ワークショップ

赤井久純大阪大学大学院理学研究科教授を実行委員長の下に、「マテリアルデザインの基礎と応用」、「巨視的分極と誘電性機能デザイン」等を課題に取り上げ、ビギナーコース、アドバンスドコースを設けて実施した。実習は日本原子力研究所光量子科学研究センターのスーパーコンピュータを利用して行われた。当該事業は、大阪大学、科学技術振興機構、日本原子力研究所（関西研究所光量子科学研究センター）との共催事業として実施した。

(1) 第5回ワークショップ：9月7日～11日

ビギナーコース33名、アドバンスドコース11名の参加を得て実施した。

(2) 第6回ワークショップ：2005年3月8日～12日

ビギナーコース26名、アドバンスドコース18名の参加を得て実施した。

研究プロジェクトの名称等	研究代表者	講師参加者等	
(1) コンピュータシヨナル・マテリアルズ・デザイン（CMD）ワークショップ ワークショップ開催状況 第5回ワークショップ 2004年9月7日～11日 第6回ワークショップ 2005年3月6日～12日	赤井 久純 大阪大学大学院理学研究科教授	<講師参加者> 小倉 昌子 笠井 秀明 金森順次郎 草部 浩一 小口多美夫 佐藤 和則 下司 雅章 白井 光雲 鈴木 直 テイノウケルツアツエリコウ 中西 寛 浜田 典昭 広瀬喜久治	16名 科学技術振興機構計算科学技術研究員 大阪大学大学院工学研究科教授 国際高等研究所所長 大阪大学大学院基礎工学研究科教授 広島大学大学院先端物質科学研究科教授 大阪大学産業科学研究所助手 大阪大学大学院基礎工学研究科助手 大阪大学産業科学研究所助教授 大阪大学大学院工学研究科教授 科学技術振興機構研究員 大阪大学大学院工学研究科助手 東京理科大学理工学部教授 大阪大学大学院工学研究科教授

		森川 良忠 柳瀬 章 吉田 博	大阪大学産業科学研究所助教授 大阪大学産業科学研究所特任教授 大阪大学産業科学研究所教授
--	--	-----------------------	--

2. 特別研究員の採用

優秀な若手研究者の研究を奨励するために研究奨学金を支給し、併せて本研究所の研究事業の成果の継承・発展を図ることを目的に 1996 年度に設けた「特別研究員」制度を踏まえ、2004 年度は 2 名を採用し、両名は、北川副所長の指導の下に研究活動を推進するとともに、課題研究「共同研究の法モデル」及び「学術情報事業」に参画した。

▫ 松井章浩（資格：PD）

研究テーマ：国際法上の国家管轄権規則の限界としての主権免除規則の再検討

研究奨励金支給額：300,000 円

なお、2004 年 9 月 1 日付けにて特別研究員の委嘱を改め雇用とした。（2005 年 3 月 31 日まで）

▫ 中林良純（資格：DC）

研究テーマ：法的強制概念の再検討

研究奨励金支給額：200,000 円

なお、2004 年 9 月 1 日付けにて特別研究員の委嘱を改め雇用とした。（2005 年 3 月 31 日まで）

. 学術情報システムの構築と学術情報事業

1. 研究過程と研究成果を統合する学術情報システムの構築の研究

学術情報システム構築の共同研究として、コピーマート研究所（CMI）において高等研との共同研究を毎週行った。それを踏まえて高等研の研究部門と事務部門の高等研学術情報システムの構築のための共同研究会（学術情報システム研究会）を 2 回開催し、2005 年度に計画している「学術研究機関における学術情報システムのモデル構築に関する研究」プロジェクトの準備を行った。

学術情報システム研究会

第 1 回研究会：2005 年 1 月 25 日

第 2 回研究会：2005 年 1 月 29 日

学術情報システム研究会の下に小研究会を 4 回開催し、蓄積コンテンツ・データの体系分類化（コード化）やサイト構造設計等を進め、ホームページの検索性の向上のための検討を行った。

2. 情報出版委員会

情報出版事業に関する具体的な推進方策及び諸課題について検討する情報出版委員会において、特に学術出版の在り方、今後の高度情報化に備えたインターネット出版等学術情報の電子化について検討し、具体化を推進した。

情報出版委員会：6月11日

なお、情報出版委員会を補完し、具体的な課題について検討する小委員会を8回開催し、実務的な協議を行うワーキンググループの会合を随時開催した。

3. 情報出版事業の充実

本研究所の知的資源である研究成果を内外に広く発信して学術の発展に資するため、「学術出版」を行っている。

この「学術出版」は、主としてインターネットを活用したPDFファイルなどの形式による「オンライン版」と、本の形式による「書籍版」の出版を進めている。

学術出版形態としては、「オンライン版」「書籍版」に加えて、CDやDVDなどの電子メディアを利用する「CD版」、利用者の希望によって成果物を編集・出版する仕組みである「利用者編集版」の4つ形態を採用し、実行している。

これらは、これまで取り組んできた課題研究「共同研究の法モデル」及び特別研究「情報市場における近未来の法モデル」の成果である『コピーマート』を活用したものである。

4. 研究報告書の発行；「コピーマート」の展開加速

2004年度においては、過年度に実施した課題研究等に関する成果について研究成果報告書を取りまとめた。

1) 「情報生物学講義シリーズ」(松原 謙一監修) 17分冊の内、既発行の7分冊に続く今年度分の6分冊)

高等研報告書 No.0306 「相同配列の比較による構造/機能予測」(藤 博幸著) / 5月発行

高等研報告書 No.0311 「KEGG/代謝マップ」(金子 實著) / 4月発行

高等研報告書 No.0302 「ゲノム配列からの遺伝子発見」(矢田 哲士著) / 7月発行

高等研報告書 No.0301 「遺伝子の機能予測概論」(中井 謙太著) / 12月発行

高等研報告書 No.0304 「プロテオミクスとバイオインフォマティクス」(谷口 寿章著) / 12月発行

高等研報告書 No.3019 「医学データベース ~ 疾患遺伝子変異情報 ~」(菟島 伸生著) / 3月発行

2) 高等研報告書 No.0207 「臨床哲学の可能性」: 高等研報告書 (野家 啓一著) / 3月発行

3) 高等研報告書 No.0401 「多様性の起源と維持のメカニズム」(吉田 善章著) / 1月発行

4) 高等研報告書 No.0402 「途上国に対する経済政策アドバイザーについて」

(橋本 日出男著) / 1月発行

5) 高等研報告書 No.0403「物質科学とシステムデザイン～次世代エレクトロニクスの構築に向けて～」(金森 順次郎著) / 3月発行

以上の研究成果報告書は、「コピーマート」を用いて発行したものである。

なお報告書印刷に当たっては、経費の効果的な運用を図るために、編集内容と配布対象に応じた最適な印刷方式と部数を検証して経費の効果的な運用を図った。

5. 高等研選書の発行

選書は、本研究において行われた研究者間の学問的対話の多彩な成果を広く世に問うとともに、自然・人間・社会のありようを考え、読者に理解を深めるきっかけになることを望みとして出版している。

2004年度は、高等研選書 No. 20「宇宙の謎を素粒子で探る」(政池 明著)を出版した。

. 一般公開事業

1. 一般公開講演会

本研究所が、けいはんな学研都市の中核的な研究所として広く認知され、活動内容に対する一般の理解を促すため、また更に学術研究に関わる最前線的话题を広く社会に提供するという学術機関としての使命を果たすため、フェローによる公開講演会を開催した。

(1) 5月15(土)

講師 ; 土岐憲三 立命館大学教授

テーマ: 東南海・南海地震と文化遺産

(2) 9月18日 (土)

講師: 杉田繁治 龍谷大学教授

テーマ: 「文明のアーカイブ; コンピュータ民族学の展開」

(3) 11月13日(土)

講師: 藤村 靖 米国オハイオ州立大学名誉教授

テーマ: 日本語と英語 - 話し方の違い、書き方の違い -

2. けいはんな春の茶会と文化・学術講演会

文化活動の一環として、2001年度から公開事業として、「茶会及び文化・学術講演会」を開催している。茶室「雅松庵」における茶席には180名が、茶道の心得のない人にも気楽に楽しんでもらえるように配慮したお点前体験コーナーにも、多くの人が体験を試みた。

文化・学術講演会は、日本画家である佐々木正子氏(企画委員)を講師に150名が参加した。

6月19日(土)けいはんな茶会と文化学術講演会

講師: 佐々木正子 京都造形芸術大学客員教授

テーマ: 茶と絵画 - 日本の美意識

3. 「親子」サイエンス・スクール

サイエンス・スクールは、21世紀を担う子供達を対象に、第一線の研究者との触れ合いをとおりして創造性と科学への夢を導き出すことを目的として、1994年度から始めたセミナー事業である。1996年度以降は、「親子」サイエンス・スクールとして実施している。参加者は公募し、近畿圏を中心とする小学校5年生及び6年生の児童とその保護者が参加。参加者からの質疑応答に時間を十分に取り、より理解を深めることを心がけている。1997年度以降については、株式会社京都銀行の支援を受ける冠事業として、さらに2002年度からは京都府が主催する「けいはんな子供サイエンススクール推進事業」の協力を得て小学校(京都府下)の図書館などに本スクールの記録冊子を副読本として配布している。参加者は、30組62名。

10月23日(土)親子サイエンス・スクール2004

メインテーマ:「君の不思議を探そう-小さい磁石と大きい磁石-」

講師:本河 光博 IIAS フェロー・東北大学名誉教授

『磁石って何?』

『電子スケールの微小な電磁石とりんごも浮く強い磁石』

:鳥海 光弘 東京大学大学院新領域創成科学研究科教授

『7000kmの巨大な電磁石:地球を知ろう』

. 広報活動

1. 「IIAS NEWS LETTER」及び広報誌「こうとうけん」の発行

「IIAS NEWS LETTER」は、本研究所の活動計画や実施報告等について、関係者や関係機関に対する速報性のある機関紙として発行。2004年度は、第38号～第41号の4編をそれぞれ3000部発行・配布した。

従来、春秋の年2回発行してきた広報誌「こうとうけん」は、その位置づけや編集内容及び発行形態等の見直しの検討のため、2004年度は発行を一時中断している。

2. インターネット・ホームページにおける公表

本研究所の概要及び研究事業の活動内容等を広く発信するために、高等研ホームページを開設している。2004年度は、学術情報システム研究会の一環として、蓄積コンテンツ・データの体系分類化(コード化)やサイト構造設計等見やすさと検索性を向上するべく、ホームページの見直しの検討を行った。

なお、2004年度を通しての外部からのアクセス件数は約27,500件(1日当たりの平均アクセス件数は約75件)で、昨年度とほぼ同数であった。

(高等研ホームページのアドレスは「<http://www.iias.or.jp/>」)